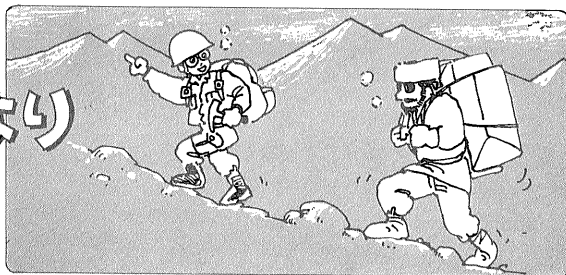


# 海外室だより



No. 25

## USGS 一行の来所

5月12日 一通のテレックスが当室に舞い込みました。差出人は USGS (米地質調査所) の Owenshine 国際地質部長で 所長以下6名の職員が6月21日から日本に立寄り 当所を訪問したいのでよろしくとの由。USGS は当所とはあらゆる面で最も関係の深い外国機関といえます。その所長が来所するとすれば 非公式とはいえ おろそかに扱うわけにはいきません。数度のテレックスのやり取りの結果 折角の機会でもありこの際両国GS間の研究協力全般にわたる意見交換の場を設けようということになりました。今回来所の顔ぶれは以下の通りです。

Dr. D. L. Peck	所長
Dr. B. A. Morgan III	地質総部長
Dr. G. Gryc	地質総部西部地区部長
Dr. W. R. Greenwood	同部国際地質部次長
Dr. D. J. Grybeck	同部アラスカ支部長
Dr. S. L. Eittreim	同部太平洋海域地質部次長

ペック所長は中国訪問の帰途 モーガン部長以下5名は訪ソの途上です。ペック所長の離日が23日であったので 22・23の両日を協議にあて モーガン部長一行がソ連へ発つ26日までの間に 彼等の希望に沿って 富士・箱根方面への巡検旅行を組むことにしました。

一行到着の6月21日は日曜日でしたが 海外室長以下4名の室員が出迎えの労にあたり 以降予定通りの日程を無事消化しました。今回の来所メンバーと当所の関係職員による意見交換の内容等については 別途まとめるつもりですが 大変に喜んでもらったツアーの様子から紹介してみることにとしましょう。(遠藤)

## 富士・箱根旅行記



写真1: USGS 一行のために海外室の河村君がデザインしたバスのプレート。たいそう気に入ったようすで Tシャツの絵柄にしたいと話していました。

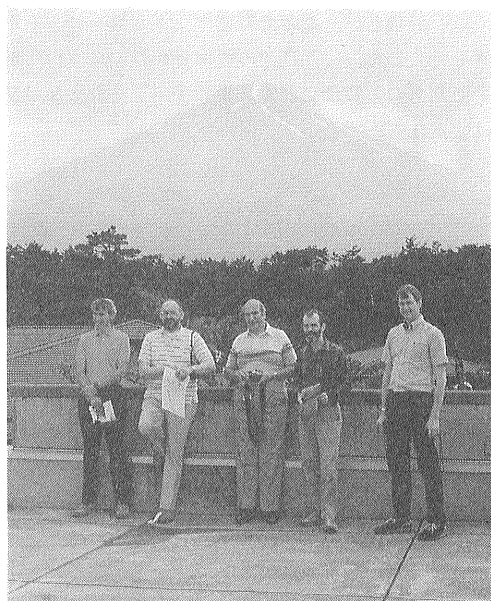


写真2: ビジターセンター屋上にて富士山をバックに記念写真。右側より Greenwood さん Morgan さん Gryc さん Grybeck さん Eittreim さん。

USGS の職員の来日に当たり その事前交渉において 富士・箱根を見学したいという希望が出されたため 6月24日・25日にかけて 富士・箱根旅行が計画されました。その旅行の様を簡単にお知らせしましょう。

前々日 前日の天気予報が雨の予報であったにも拘らず晴の日の続いたので そんなに晴の日の続くわけがない きっと当日は雨だろうと半分諦めていたのですが 幸いにも早朝は曇り空でした。河村君がデザインした Morgan's Delegation のプレート(写真1)をつけたマイクロバスは USGS の一行をホテル・スワで拾い 午前8時30分 予定時刻通りに富士山を目指して筑波を出发しました。

常磐自動車道から首都高速道路に入ると交通渋滞に出会い しばらくはのろのろ運転となりましたが あそこに見えるのが浅草 ここが銀座 皇居と説明していくうちにいつしか中央高速道に入り 車の流れもスムーズになりました。まわりの山々の景色は霞んで富士山は見えませんでした。次第に近づくにつれて天気も晴れてバスが山梨県に入る頃になると富士山がきれいに眺められるようになり 一同感嘆の声をあげました。日本では「晴れ男」「晴れ女」という言葉があるがアメリカではどう言うのかと尋ねると「lucky man」「lucky lady」と言うそうで お互いに言い合っ て天気の良いことを喜び合いました。

河口湖 I. C. を出る頃にはお昼近い時間でしたので 近くのレストランで昼食をとりました。Grybeck さんは 減量ということで野菜サラダとコーヒーしかとりませんでした。写真でみてお分かりのように 前につきでたあのお腹は立派で見事です。それを減量するのは大変なことでしょう。

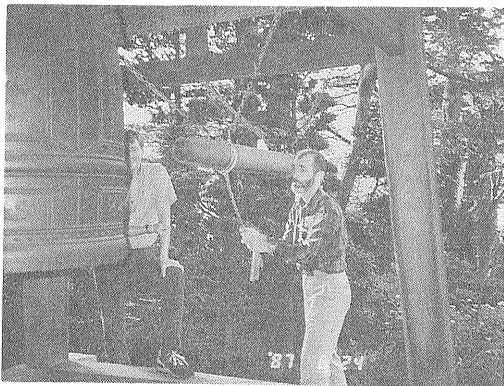


写真 4: 河口湖畔のお寺にて鐘をつく Morgan さん(右)と Greenwood さん。30秒毎に鐘をつくということで几帳面にも腕時計で時間を測っているところで。

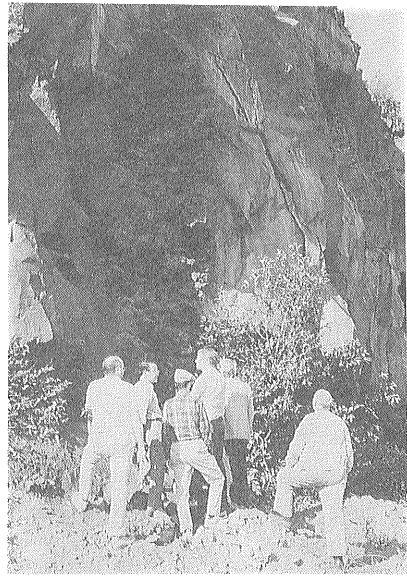


写真 3: 青木ヶ原の石切り場露頭に倉沢室長から tree mold の解説を聞く USGS 一行。

昼食後 最初の見学場所であるビジターセンターを訪れました。USGS 一行は 富士山のパネル写真を特別に戴き ごきげんな様子でした。また 屋上では富士山がきれいに眺められ それを背景に記念写真を撮ったりもしました(写真2)。Grybeck さんは人が写真を撮っているところを撮るのがお好きなようで 旅行中もしばしばそうした光景が見られました。

次に富士山五合目までバスで上り 富士火山の説明を聞きながら近くを見て回りました。Morgan さんは記念に戴いた鈴を3つも4つも服につけ いかにも得意げなようすでした。

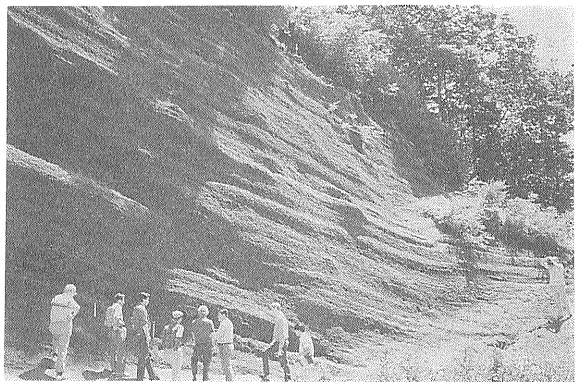
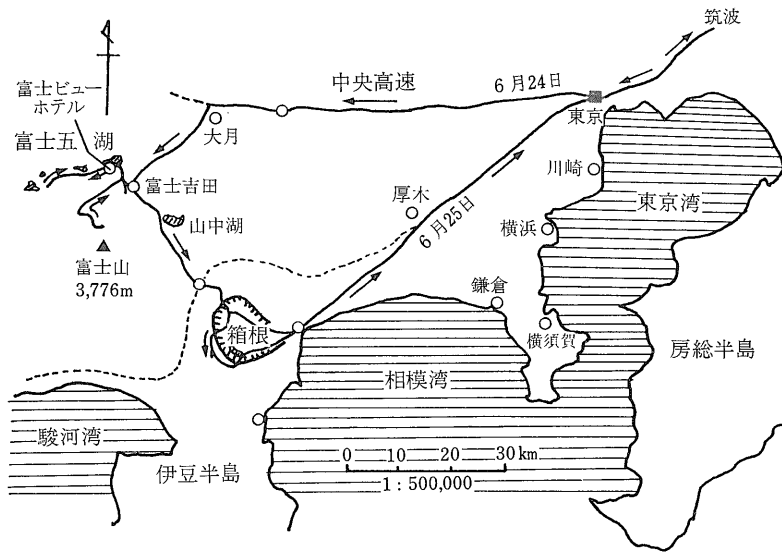


写真 5: 柴怒田にて富士テフラの見学。右端でカメラをかまえているのが Grybeck さん。



続いて GSJ の岩石標準試料の一つである JB-3 の原石となった富士溶岩の石切り場(青木ヶ原)を見学しました。10メートルほども切り立った岩場のもとで岩石や tree mold の議論をしている様子は アメリカのフィールドでもかくありなと思わせるものがありました(写真3)。

ホテルには夕方5時頃に到着しましたが 夕食までしばらく時間がありましたのでホテルの近くを散歩しました。たまたま裏手にお寺があり 境内を見ていたら6時に鐘をつくために出てきた奥さんに出会いました。奥さんのご好意で Morgan さんと Greenwood さんはお寺の鐘をつくことができ(写真4) 更にお寺の本堂まで拝見させて戴き 彼らも物珍しさと同時にその好意に感激したようです。

夕食は日本風の古くて太い柱と板戸のある家でとりましたが なかなか気に入ったようです。また Greenwood さんは その家の2才半になる男の子と一緒に遊んだり特技を披露したりして 気さくな一面を見せたひとときでした。

翌日は少しひんやりとしていたものの朝から良い天気です。午前9時20分頃ホテルをたちました。山中湖を抜け 柴怒田(しばた)の富士テフラ 及びその中に挟まれている AT (始良火山灰)などを観察しました(写真5)。Grybeck さんはどこからか木いちごの実を見つけました。一緒に食べましたが 採ったばかりの木いちごは美味しいものでした。そこからバスは御殿場を抜けて箱根カルデラへとむかいました。

箱根の山からは昨日上った富士山が良く見え また富士山に雲がかかると写真を撮るためにバスを止めたりもしました。箱根峠では芦ノ湖やカルデラの様子を眺

め その展望の良さに感激したようです。

昼食後 箱根関所跡を見学したのち 最後の見学場所である大涌谷へむかいました。大涌谷はアメリカのエオロストーンに比べると小さな所ですが それでも楽しく記念写真を撮っていました。午後3時 大涌谷をたち 小田原厚木道路 東名高速道路を東京へとむかいました。途中 日常生活の話や共同研究の話題に花を咲かせながら 始終うちとけた感じでした。6時には浅草のホテルに着きましたが お別れの挨拶をするころには 仲の良い友達のような気がしてなりませんでした。これも皆 彼らの気さくさ故のことでしょう。

彼らにとって 富士・箱根の巡検は今回が初めてでありましたが 日本に対する印象はかなり良かったものと思われまます。ご協力戴いた多くの方々には紙面を借りて厚く感謝致します。(金井)

#### 語録・寸評

- ベックさん：スーツケースや書類はそっちのけでお話に大忙し。日本人なら「扇子バタバタ」のタイプ。  
 モーガンさん：「私はメイシ(名刺)を持ちません」  
 いちばんマジメに露頭を見た人。  
 グリッチさん：来年のマップ会議(日本で開催)で頭はイッパイ。どこへ行っても 何を見ても「マップ会議の時は……」となる。  
 グリーンウッドさん：和食びいき。所属している国際地質部については「USGS の宝です」。  
 グライベックさん：「アラスカでは 鮭はけとばしてもとれるんだ」。  
 エットリアムさん：和食党で物静か。バスの中ではヘアピンカーブで動く荷物の世話で大忙し(広山)